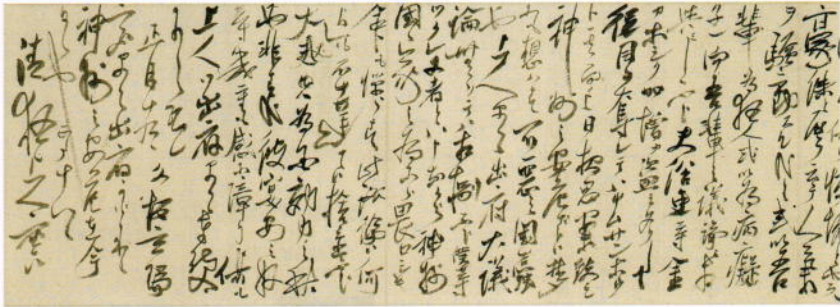
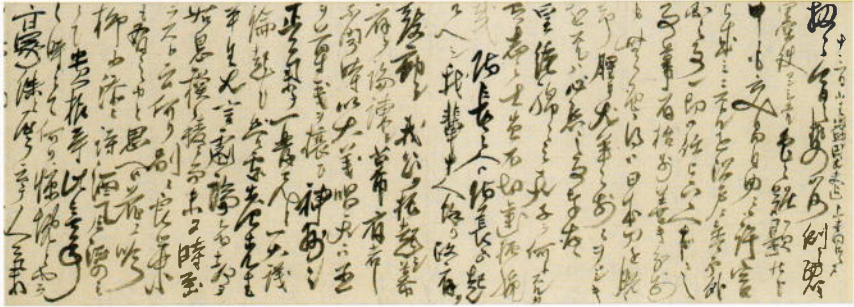


やまとの名品 天理図書館



く さかげんずい
久坂玄瑞書簡

げいせい
月性宛

安政5年(1858)正月19日付 1軸

縦28cm 横132cm

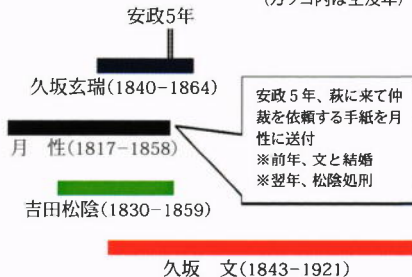
今年のNHK大河ドラマ「花燃ゆ」の主人公・文は、吉田松陰の妹で、久坂玄瑞の妻です。

玄瑞は、長門国萩藩医の三男に生まれますが、母・兄に続き父も失い、十五歳で当主となります。幼い頃から優秀で、諸国を遊学した後、松陰の松下村塾に入門。入塾後は、たちまち頭角をあらわし、高杉晋作と共に「松門の双璧」と称されるほどでした。そうした玄瑞を松陰は「防長年少第一流の人物」と高く認め、安政四（一八五七）年十二月、文との縁談を勧めます。玄瑞十八歳、文十五歳でした。結婚した翌年、藩では締結された日米修好通商条約の是非を

巡り、藩校の明倫館と松下村塾との間で激しく意見が対立します。その際、長州藩内で早くから倒幕論を唱え、海防の重要性を説いていた僧・月性に玄瑞は本書簡を送りました。

月性へ双方の調停を依頼するために記した文面には「上人早々出府、大議論無クテハ相捌不申候（早々に萩に来ていただき、大議論なくては捌くことができません）」とあり、事態の切迫していた事を窺わせます。松陰もまた、同月日付で月性宛に同内容の書状を届けています（本館所蔵）。月性はほどなくして萩に赴き、当面の事態を収めるのでした。

【玄瑞とその周辺の人々】
(カッコ内は生没年)



その後、安政の大獄によって松陰が刑死すると、玄瑞は師の意志を受け継ぎ、英国公使館焼き討ちなどの尊皇攘夷運動を主導しましたが、蛤御門の変により負傷し、ついに自刃。享年二十五の若さでした。

(天理図書館 佐上圭太)

天理図書館のお知らせ Tel: 0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>

◆平日(午前9時~午後5時半) 土・日・祝(午前9時~午後4時半)

○2月の休館日:10日~20日・27日

(本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください)

本書簡は、5月から開催される、東京天理教館「天理ギャラリー」に出展予定です。